

# 2020年7月開業のウポポイ 入場者100万人！ 9月29日 記念セレモニーで達成祝う

100万人目となったのは、家族4人で初めて訪れた群馬県前橋市の笠原ののかさん(10)。「ウポポイには踊りとか家とかを見に来ました。めちゃくちゃビックリ」と、報道陣の数に驚いていました。

保育園時代にアイヌ文化に触れ興味を感じたののかさん。「来るのを楽しみにしていました。きれいな施設。もっと多くの人に来てもらいたい」とトゥレップのぬいぐるみやバッグなど記念品を受け取り、笑顔で記念撮影に収まっていた。

村木美幸運営本部長はあいさつで関係者への感謝を述べ、「これからも多様な文化の在り方を職員、来場者と一緒に考えていきたい。道内の認知はある程度高いので今後は道外、海外に向けPR活動に力を入れたい」と話していました。



## アイヌ施策を担当する自見大臣 就任後初めてウポポイを視察

自見英子沖縄・北方担当大臣が10月5日、ウポポイを訪れ、慰霊施設や中核施設の国立アイヌ民族博物館などを視察したほか、伝統芸能の鑑賞や若手職員との懇談を行いました。

写真：自見大臣（中央）に博物館の概要を説明する佐々木史郎館長（左）、常本照樹アイヌ民族文化財団理事長（右）、同行の大塩英男白老町長（後列）



## 米・ハワイ州のアヌエヌ工学園の生徒ら来町

### ウポポイ見学、白翔中生徒との交流でアイヌ文化・日本文化学ぶ



ハワイ文化のフラダンスを披露するアヌエヌ工の生徒たち

アヌエヌ工学園はハワイ州の中でも数少ない、ハワイ語で幼稚園から高校まで同じキャンパス内で教える学校。同校校長が昨年10月に教育視察で二風谷小（平取町）を訪れ、今年1月には道副知事と道アイヌ協会率いる舞踊チームが同校を訪れるなど相互の交流があります。これらをきっかけに、生徒の初の海外研修先をウポポイのある白老に決めました。校長と教諭2人、9年生（13、14歳）の生徒6人の計9人が来町しました。

白翔中1年生33人との交流では、アヌエヌ工の生徒らが自然や神々に感謝しきさげる神聖な古典フラやモダンフラを心を込めて披露。白翔の生徒らが見入っていました。両校生徒は一緒にチキサニのスタッフの指導によるアイヌ文様の切り絵を体験したり、給食を食べたりしながら交流を深めていました。

生徒らは「日本語や自分たちの文化に似ているアイヌ文化をもっと学びたい」（アヌエヌ工）、「他の国の文化を知れたことがうれしい。将来ハワイに行ってみたい。」（白翔）などと感想を述べていました。アヌエヌ工の校長は「言語と文化は両方合わせて学ぶことに意味がある。今回の研修旅行では、日本やアイヌ文化を肌で感じ、自国文化の理解も一層を深めてほしい」と話していました。（10月6日）